

掲載意見お寄せいただくお願い
～最近勉強会メンバーから寄せられた事例から～

新型コロナの影響下、定例の勉強会なども欠席者が増え、あるいは休会せざるを得ない状態で推移している。

そこで、会員からの意見を募り、希望する場合は要旨を掲載することにしたい。以下、サンプルとして・・・最近の勉強会などでの意見を紹介したい。

会員の皆さんには、意見を寄せて欲しい。

<国際情勢>

大きなトレンドを押さえることが肝要。

米大統領選に結果にかかわらず、米中の対立は一層深刻になる可能性を前提にしなければならない。

その場合、わが国は、安全保障と価値観という理由からアメリカサイドに立つことは不可避。

しかし、その場合に留意しなければならないのは、中国の底力の大きさ、アメリカに比しての影響力の大きさを正しく抑えてかかる必要があるということだ。

以下、中国の力量のポイント ①14 億人という国内市場の大きさ、プラス7000万人程といわれる華僑ネットの潜在力 ②アフリカ、アラブ・イスラム圏、中南米などこれから発展する諸国への浸透力 ③欧米の価値観と衝突する可能性の高い権威主義的指導者（トルコ、ロシア、イランなど）が増える可能性の高さ。そこでの中国の影響力拡大の可能性。

<わが国の立ち位置>

海洋国家として、広く諸外国との協調関係を構築する。

価値観を共有する、欧米諸国をはじめ、これから人口も増え、影響力の高まるアジア、アフリカ、中南米など、多角的な関係強化を図る。個別には、オーストラリア、カナダ、ASEAN、インド、アラブ・イスラム諸国などへは積極的に協調・友好関係を構築。

特に、トランプ大統領の一国主義的な傾向を強めるアメリカの不確実性に留意しつつ、中国への経済実務関係は“賢明な”配意の下、拡大していくことが欠かせない。

個別企業の戦略が肝要。

情報分析、危機管理が益々重要になる。

<米大統領選について>

- * 混迷への備えをしておくべきだ。
平和的な政権移譲はないのでは・・・年末年始の一層の混迷もありうる。

- * 特に、トランプ大統領によるオクトーバーサプライズ
混迷下、トランプ大統領による国際的サプライズがありうる。

サブランズを狙う性格。

対イラン、対ベラルーシ、対中国（南シナ海、台湾など）、対北朝鮮などでの電撃的な対応（強硬策や会談も）ありうるのでは・・・